

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

1 学校教育目標	(1) 基礎学力と専門の知識・技能の確実な定着 (2) 基本的生活習慣の習得と豊かで逞しい心の育成 (3) 産業界の信頼に応える学力の保証と勤労観の育成 (4) 豊かな人間性や社会性の育成
2 現状の分析	○基本的生活習慣の充実を目標に、全校体制で遅刻防止指導に力を入れてきた。キャンペーン活動である「遅刻0週間」を「遅刻0習慣」へとさらに推し進めた。昨年度に比べ若干遅刻者数は増加したが、落ち着いた学習環境が確立されている。 ○基礎学力向上を目指し、始業前に10分間の朝学習時間を設けた。基礎学力判定テストにおいて有意な効果が認められた。 ○昨年度より「次期学習指導要領を見据えたカリキュラム開発」（3年間指定）の研究協力校の指定を受けている。基礎学力の定着を目指し各教科で積極的な取組が見られ、視聴覚機器を活用した授業も増えてきた。 ▲学科間、またクラス内でも生徒個々の学力差が大きく、実態の把握ときめ細かな指導が必要となっている。
3 学校の抱える課題	・地域に貢献できる工業技術者の育成を目指した高校として、社会のニーズと生徒の進路希望の両立を図る取組が必要である。 ・地元企業から優秀な人材を望まれる一方、コミュニケーション能力や基礎学力不足の生徒への指導の在り方。 ・多様化する生徒に対し、個別に合理的な指導方法を作成し、かつ全職員で共通理解を図る必要がある。 ・部活動や資格取得など、授業以外の諸活動において、より一層意欲的な取組みが求められる。 ・挨拶や身だしなみ、交通安全やSNSの適切な使用など、ルールやマナーの向上を図るための有効な指導方法。
4 今年度の具体的な重点目標	1. 逞しく生き抜くための基礎学力の定着と、専門知識・技能の習得を図る「チームワークでつくる可児工の確かな教育力」 2. 社会人としてのマナーやモラルを身につけた生徒の育成「生徒のことを思いやる心と共感的な生徒理解」 3. 地域社会や地域産業から期待され、信頼される学校づくり

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
教育課程 学習指導	①基礎・基本の定着を徹底する ②授業改善を目的に研修を充実	①診断テストの実施 ②生徒アンケートの分析	① 基礎学力診断テストの分析 ②公開授業週間や職員研修の開催	B B	○視聴各機器の積極的な活用と新しい指導法の研究	A B C D
キャリア教育 進路指導	①進路ガイダンス機能の充実 ②主体的な進路選択意識の醸成	①就職希望者全員の内定確保 ②就職・進学活動の積極性	①外部講師の協力を得て5回以上実施 ②進路選択に明確な目標を持たせる事	B B	○3年間を見通したキャリア教育の充実	
生活指導 コミュニケーション能力 の育成	①多様な生徒に対応できる、指導 法の研修と実践 ②基本的な社会マナーの定着	①個人のスキルアップと組織 としての指導力の向上 ②外部からの評価	①問題行動の減少と退学者の減少 ②各種イベントへの積極的な参加	B A	○学年が進むにつれ問題行動の減少が見られる。 ▲自立力を高める指導	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月19日

・地域の行事に積極的に参加するなど、地域に密着した工業高校としての役割を果たしている。
・入学後の生徒の満足度が95%というのは評価ができる。地元で貢献できる生徒を育てて欲しい。
・どのような高校生活を送っているのか、授業参観など学校を開放する日を設けて欲しい。

12 来年度に向けての改善方策案

・多様な生徒対応のため、支援員や外部との連携を図り、教育相談体制を強化する。
・魅力ある授業を目指し、指導法の工夫や授業改善に向け職員研修を充実させる。
・基礎学力の向上のために朝学習及び授業の在り方を検討する。
・生徒の意欲を引き出す効果的な評価の在り方を、学校活動全般に位置づける。
・工業高校の魅力をアピールし、定員の確保に結びつける。